



一人一人に合った本の読み方



子どもから大人まで

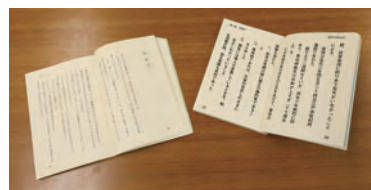
■布絵本

布地やフェルト・ボタンなどを用いた手作りの絵本です。触って楽しむことで、子どもの発達を促す効果があるといわれています。



■大活字本

通常の本より大きな活字で印刷された本です。文字も読みやすい書体(フォント)で視力が弱い方なども読みやすくなっています。



■おはなし会

取手図書館：毎週水曜(乳児向け)、毎週日曜(幼児・小学生向け)
常陽建設ふじしろ図書館：第1・3木曜(乳児向け)、第1・3土曜(幼児・小学生向け)
戸頭公民館図書室：第2・4土曜(乳児から小学生向け)



■拡大読書器

本を高解像度カメラで投影し、文字や画像を大きく表示します。楽な姿勢で使用でき、簡単な操作で視力の弱い方や色が分かりづらい方も自分の状態に合わせて拡大率や色、明るさを調整して本を読むことができます。



バリアフリー

■点字図書 ー触って読むー



本の内容を点字の凹凸^{おうとつ}で伝えていきます。子どもから大人まで多様な種類の点字図書があります。手で点字に触れることで視覚障害のある方も本を読むことができます。

「てんじつきさわるえほん こぐまちゃんとどうぶつえん」
著者／わかやまけん、出版社／こぐま社(写真左)
「さわるめいろ」 著者／村山純子、出版社／小学館(写真右)

■DAISY図書 ー聴いて読むー

再生機を用いて音声で本の内容を聴くことができます。また、目次から読みたい見出しやページに移動することができます。視覚障害のある方も耳で読書を楽しむことができます。



■みかん箱プロジェクト ー読書支援機器を借りて読むー

視覚障害のある方、手でページをめくることが難しい方などの読書をサポートする道具セットを、市内の団体に無料で貸し出しています。今回は、令和7年12月までの期間限定での実施となります。

図書館ホームページ
みかん箱プロジェクト



貸出機器：タブレット(iPad)、DAISY機器、入力装置、アーム、スタンド
申込：申込書に記入し、希望日の2週間前までに取手図書館窓口、メールやファクスで提出
貸出期間：4週間

デジタル化で図書館がより身近に

インターネットで本が予約できる

図書館に行かなくても、自分のパソコンやスマートフォンなどから借りたい本を予約できます。

- ①図書館ホームページから借りたい本を検索し、「予約かごへ」をタップ
- ②「予約かご」ページから「予約」または「順番予約」をタップ
- ③「利用カード番号(図書館利用カードの9桁)」と「パスワード」を入力
- ④受け取り施設、連絡方法を選択して「予約確定」をタップ

図書館
ホームページ



利用カードもデジタル化で便利に

図書館利用カードを持ち歩かなくても、スマートフォンで本が借りられます。

- ①図書館ホームページ右上の、3本線のメニューボタンをタップ
- ②「マイメニュー」をタップ
- ③「利用カード番号」と「パスワード」を入力して「ログイン」をタップ
- ④表示された利用カードのバーコードを貸し出しカウンターで提示

注意事項

▶図書館利用カードをお持ちでない方は、事前に図書館などの窓口で作成してください。▶パスワード未登録の方は事前に図書館ホームページまたは図書館内検索機で登録してください。

電子書籍が読める

電子図書館はパソコンやスマートフォンなどから電子書籍を借りて読むことができるインターネット上の図書館です。電子書籍は、音声読み上げや文字の拡大表示ができるなど、紙の本とは違った便利な機能があります。いつでも、どこでも読書を楽しむことができます。本は3点まで、15日間借りられます。貸し出し中の本は3点まで予約できます。

電子図書館
ホームページ



電子図書館ホームページ右上の、「ログイン」ボタンをタップ



利用カード番号とパスワードを入力し「ログイン」ボタンをタップ



読みたい本を見つけたら「借りる」ボタンをタップ。※予約待ちは、「予約する」ボタンと予約待ち人数が表示されます

「誰もが楽しめる読書空間」 あなたにとって図書館とは

図書館は静かに過ごすイメージがあり、子どもを連れて行くには勇気がいりましたが、実際に行ってみると子ども向けのスペースやおはなし会など、通いやすい環境が整っていました。さらに、近い月齢の子どものママと交流できることも魅力でした。娘も最初は緊張した様子でしたが、幅広い世代の方と顔なじみになり笑顔が増えました。今では親子で絵本を楽しんでいます。



ほしあつみ
星敦美さん親子

「子どもは本が好き、読んでもらうのはもっと好き」が私のモットーです。「本の魅力を小さな子どもたちにも！」と赤ちゃん向けの読み聞かせボランティアを楽しんでいます。まだ言葉が分からない子どもたちも、絵本の中の言葉に反応して、体を動かしたり、笑ったり、注視してくれる事が多々あります。本には特別な力があるのかなと感じます。



しばやふじこ
柴谷不二子さん